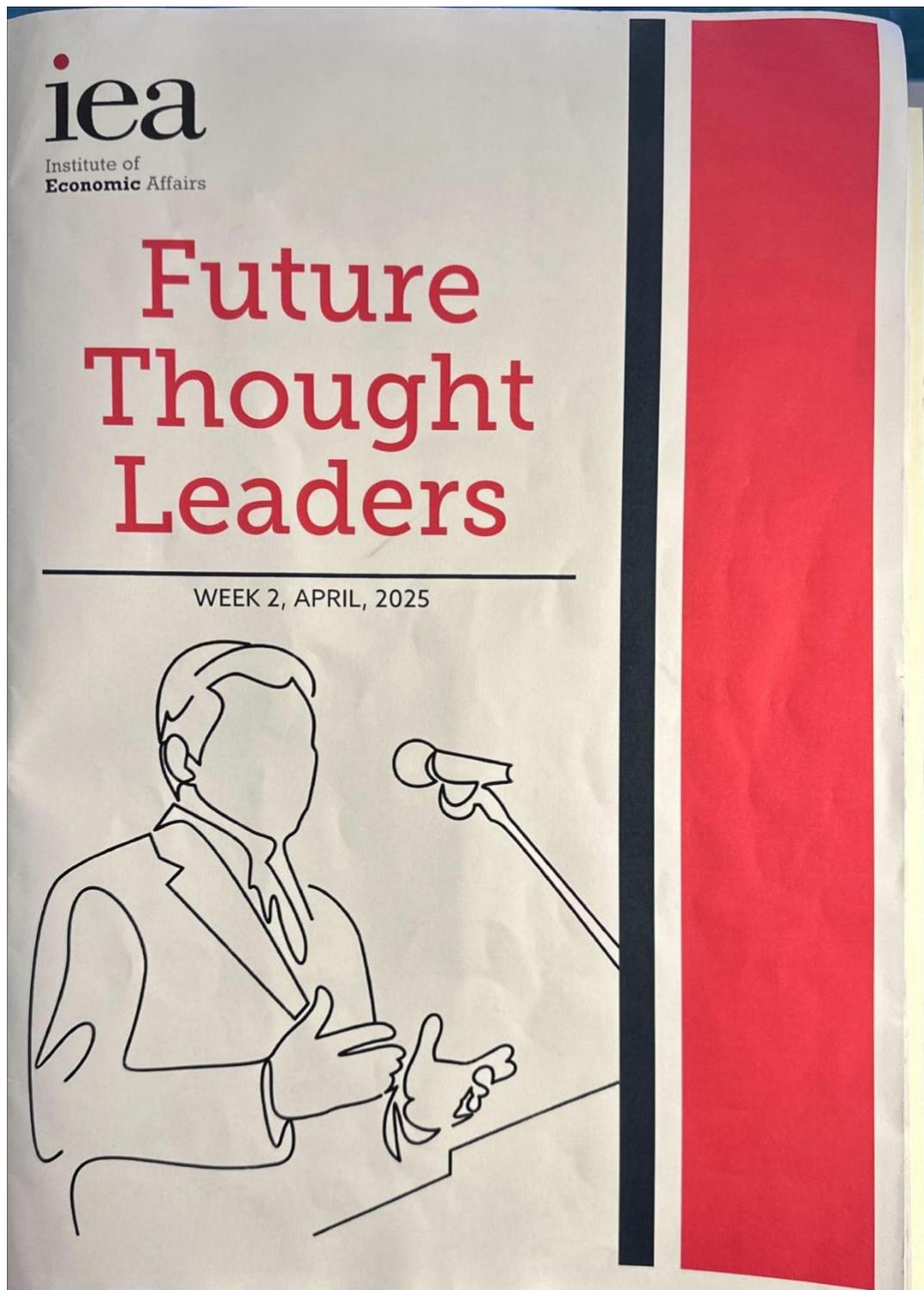


 IEA の振り返り :



## 1. コース内容

- A-level の試験カリキュラムの枠を超えて、経済的な考え方や概念について議論する経験を積む。4月14日から17日の4日間、専門家である経済学者の講義、ディスカッション、ディベートなどを行った。
- 28人のY12&Y13が参加。男女比率は16/14。皆大学で経済学を専攻したい人。多くがCambridgeのEconomicsやOxfordのPPEを目指している。約400人が応募。
- スケジュールは以下

Schedule				
	Monday 7th April	Tuesday 8th April	Wednesday 9th April	Thursday 10th April
10:00-10:45	Welcome, introductions, ice breakers ✓			What to make of Trump's tariffs Julian Jessop ✓
10:45-11	Pitch assignments Remaining admin Sam Cruickshank ✓	60-second debates ✓	Brief: Unpacking the Motivation Jacob Farley ✓	Break ✓
11:00-11:30	Break ✓			Solving the Productivity Puzzle Julian Jessop ✓
11:30-11:45				Break ✓
11:45-12:00	Think Tanks and what they do Sam Cruickshank ✓	Inflation Juan Carlos Rodríguez ✓	Values Quiz Values Discussion Stephen Davies ✓	Career in Economics Julian Jessop ✓
12:00-12:30	Lunch ✓			
12:30-13:30	Introduction to Liberalism Stephen Davies ✓	Why everything is awesome Stephen Davies ✓	Free Market Environmentalism Andy Mayer ✓	Pitches ✓
13:30-14:30	Break ✓			
15:00-15:50	The Great Divergence Daniel Freeman ✓	Public Speaking Sam Cruickshank ✓	Paternalism Christopher Snowden ✓	Superlatives & awards Closing ✓
16:00-16:30	Break ✓			
16:30-17:30	Speed networking ✓	Housing Crisis Kristian Niemietz ✓	Socialism Kristian Niemietz ✓	

## 2. 学んだこと

- 印象に残ったトピック

### 1) England Housing Crisis

講師は、なぜこのような問題が発生したのかを紹介することから始め、この問題を引き起こした政府のさまざまな介入や、意図していなかった要因がいかにかこの危機を悪化させたかを説明してくれた。例えば、長いペーパーワークと裁量制というイギリスの制度が、いかに住宅の供給を妨げてきたか、また、現在の住宅制度に隠され、使われていない経済的インセンテ

イブについて。講師は、政府の介入を減らし、自由市場を増やすことが状況を改善することにつながると訴えた。

## 2) What to make of Trump's tariffs

時事問題や、経済と政治がどのように絡み合っているかに特に興味があるので、このトピックはとても興味深かった。特に新しく、興味深いと思った点は4つある。

第1: アメリカの貿易関税の目的は貿易赤字の削減である。ここでトランプは、貿易の不均衡や貿易赤字は「貿易業者の不正行為」によるものだと考えており、したがって関税の引き上げは貿易業者に「不正行為をするな」と警告することになる。しかし、この考え方がすべての状況に適用されるのであれば、米国が貿易黒字国である場合、米国こそが「ズル」をしていることになり、矛盾している。つまり、この思考回路は機能しない。講師はアメリカは貿易赤字の実際の原因を解決するにおいて、単純な関税の計算式をすべての貿易業者に適用することで、それぞれの貿易取引に対する調査が不足しており、この関税戦争は実際の問題を解決することにはならないと指摘した。

第2: トランプは輸入は悪い、輸出は良いと言っている。しかし講師は、現実には逆もまた真であると指摘した。輸入は消費者の選択肢を増やし、イノベーションと発展につながる競争を生み出し、価格を下げ、経済を活性化させる。輸出は国内での消費を減らすので、輸出は輸入品を買うための収入を得るためにあるに過ぎない。具体的な文脈で説明すると、鉄鋼関税が上がり、輸入が減ったとする。米国内の鉄鋼雇用は保護され、何千人もの雇用が維持される。しかし、他の商品を生産するために鉄鋼を使用する製造業は、安価で手ごろな鉄鋼の輸入がなくなるため、不利になる。そのため、これらの企業は生産コストが上昇し、雇用が削減される可能性がある。その結果、国内での雇用は大幅に減少することになる。米国にとってこれは大きな損失だ。

第3: トランプ大統領は、関税は国にほとんど害を与えないという仮定の下でこの関税戦争を行っている。彼は、この関税は国内経済に投資できる数百万ドルの収入を生み出すと言う。しかし実際、関税は国内消費者が外国製品を買う量を減らすことを意味するため、需要が減る＝関税による収入が減ることになる。

第4: この関税戦争は多くの国々を怒らせている。高関税且つアメリカからの対外援助が少ない今、特に発展途上国の多くは非常に脆弱だ。中国はこれを機会に、他国と新たな外交関係を築き、影響力を強めていると言われている。これがプラスに働くかマイナスに働くかは議論の余地があるが、中国が世界的な影響力を高めつつある一方で、アメリカはその逆を進

んでいることは事実だ。これは世界のパワーシフトの重要な転換点になるかもしれない。

### 3) Solving the productivity puzzle

この講義は、「生産性はすべてではないが、長期的にはほとんどすべてである」("productivity isn't everything, but in the long run it is almost everything")という引用から始まった。

私は、生産性の向上が GDP/経済成長を高める鍵であることを経済学の授業で学んでいた。だからその重要性は知っていた。講師は G7 諸国の生産性のグラフを見せながら、日本の生産性が最も低いことを指摘した。なぜか？を日米の生産特性の比較を通して彼はその理由を述べた。

米国

- 1)比較的柔軟な労働市場と製品市場
- 2)強力なベンチャーキャピタル部門/起業家精神、銀行融資への依存度の低さ
- 3)リスクを取る文化

日本

- 1)人口動態-高齢者人口の増加と若年人口の減少
- 2)低金利による「ゾンビ企業」の維持
- 3)特に農業における保護主義
- 4)保守的な文化

ここで、彼は 3)を間違えていると思う。というのも、お米の分野での保護主義は重いが、その主な理由のひとつは、日本のお米と他国の米が決定的に違うからである。しかし、高齢化が進み、若い人たちが第一経済セクターではなく第三経済セクターに入っているため、米の生産はますます難しくなっている。これが保護主義の理由であり、国がそうする正当な理由があると私は考える。講演では、農業保護主義が他国からの輸入や競争を妨げており、日本は自由な市場競争に開放されるべきだという指摘があった。このような理由から、私は彼の指摘に同意できない。しかし、リスクテイクの文化が日本の経済成長を妨げているという指摘は、確かに正しいと思う。この講義は、日本経済がいかに脆弱であるかを改めて実感させた。そして早く日本社会に貢献できる知識やスキルを身につけ、この悪い状況を変えたいと思った。どうしたら日本の経済はより効率性を高められるのか？その答えを見つけるために私は経済学を学んでいる。

### 4) Why everything is awesome

講師のポイントは、人とモノの自由な結びつきが、コミュニケーションとイノベーションを飛躍的に向上させ、年々貧困の削減と生活水準の向上に

つながったというものだった。だから「自由主義」「自由市場」は良い。  
(IEA の信念) 彼は講義の最後に、「私たちの生活水準は以前よりずっと良くなっているのに、なぜ私たち、特に若い世代は 1960 年代と比べて今日や将来を悲観するのだろうか?」と言った。1960 年代は第二次世界大戦の後。世界のどん底を見ると将来が明るく見えるのか?ということは第三次世界大戦がないと我々は明るい将来を見据えることはないのか?自分で考えろと言われたので彼が言いたかった意図は分からないし、自分でも答えは見つからなかった。

### 3. 自分の成長

- 成長

このプログラム以前講演では、講師が話していることを理解するのがやっとで、それを批判的に考えたり質問したりするキャパシティーがないことがほとんどだった。しかし今回私は話を聞き、考えを結びつけ、過去に学んだことに当てはめることができた。また、自分が考えていたこと、疑問に思ったことをたくさん質問することができた。今までは手を上げること自体緊張していたものだからそこは成長だと思う。この結果、3 人の生徒に授与されるキー・コントリビューター賞を受賞することができたのはとても嬉しかったし光栄だった。



- 考え方の変化

今回のプログラムを通して「自由市場」と「自由主義」は何を意味するのか? どうして IEA はこの信念を掲げているのか、深い洞察を得ることができた。A-level で学んでいる内容は正直暗記すればテストで点数は取れるような内容。けれど、実際の世の中で今学んでいることが実世界の文脈でどのように応用されているのか? その答えを少し理解することができた気がする。

- スキルの向上

プログラムの一部として、エレベーターピッチを行った。能力のある 27 人と 3 人のジャッジの前での 1 分間のスピーチはとても難しかった。結果緊張して、自分の思った通り上手くはいかなかった。

このスピーチで気づいた自分の弱点や学んだこと；

1) 緊張すると話すスピードが速くなってしまう

2) スピーチは暗記したけれど、本番忘れかけてしまいノートを見るため下を向いてしまった

3) センテンスとセンテンスの間は貴重である

4) ボディーランゲージの重要性

次回スピーチをするときはこれらの弱点を中心的に直し、より良いスピーチができるように励みたい。

## 5. 今後の目標 (Future goals)

- この学びをどう活かすか

このプログラムは、私に経済学と政治学、そして哲学の相互関係を教えてくれた。ある出来事についての説明は、すべてひとつのテーマで説明することはできない。世界とはそういうものなのだ。私はやはり、さまざまな角度や視点から問題を追及し、その原因を突き止めることが好きだ。今回のプログラムはそれを私にまた思い知らせるきっかけとなった。これからも時事問題を追ったり、講演会に参加したりして、世の中を知りたいと思う。将来的には国際開発に関わる仕事に就きたい。日本、世界の現状をよくしたい。それをどんな手段とするかはまだ私にも分からないが、沢山の人と出会い、沢山の考えに触れることでこれから見つけられればいいと思う。

以上